

安全報告書



伊勢鉄道株式会社

2016

1 お客様はじめ地元の皆さまへ

平素は伊勢鉄道をご利用いただくとともに、弊社の業務運営にご理解・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2015年度は、台風及び集中豪雨にともなう輸送障害により、ご利用のお客様に一時的にご迷惑をおかけしましたものの、「安全目標」に掲げる運転事故及びインシデントの発生はなく、概ね安定した輸送を提供することができました。これは、当社の「安全基本方針」を社員一人ひとりが自覚し、一丸となって取り組んだ結果として達成できたものと考えております。

今後とも、「安全基本方針」に基づく業務を徹底することで、「伊勢鉄道が安全で安心できる鉄道」として、より多くのお客様にご利用いただけますよう、全社員が一丸となって事故防止に努めてまいります。

本報告書は、鉄道事業法に基づき、輸送の安全確保のための取組や安全の実態について、自ら振り返るとともに、広く皆さまにご理解いただくために公表しているものです。

皆さまの声を輸送の安全に生かしてまいりますので、ご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せください。

伊勢鉄道株式会社

代表取締役社長 石垣 英一

2 基本方針と安全目標

(1)基本方針

安全輸送の確保は経営の根幹であり、「安全基本方針」を次のように掲げ、社長以下全社員に周知・徹底しております。

安 全 基 本 方 針

1. 社員一丸となって、お客様の安全の確保を最優先に取り組む。
2. 輸送の安全に関する法令及び関連する規程を遵守し、厳正なる業務執行に徹する。
3. 確認の励行に徹し、疑わしい時は最も安全と思われる取扱を行う。
4. 事故・災害等が発生した時は、列車防護、人命救助を最優先に行動し、情報連絡を確実に行う。
5. 常に問題意識をもち、必要な変革を行う。

(2)安全目標

当社は「安全基本方針」を受けた以下の「輸送安全目標」を定め、日々輸送の安全確保に取り組んでいます。

輸 送 安 全 目 標

1. 列車事故（衝突,脱線,火災）及びインシデントを発生させない。
2. 踏切障害事故を発生させない。
3. 人身障害事故を発生させない。



その結果、2015年度は「重大事故・インシデント」の発生はありませんでした。2016年度以降も以下の安全重点実施計画に取り組む中で、安全を大事にする社風を確固たるものとすべく、教育・訓練の充実等、全社員の安全意識の更なる向上に努めていきます。

(2016年度以降の安全重点実施計画)

項 目	内 容
列車の運転に係る事故防止	・法令遵守及び基本動作の確実な励行 ・社内規程やマニュアル類の継続的な整備と遵守 ・安全関連設備の継続的な整備
教育・訓練の充実	・鉄道従事員に相応しい人材の育成 ・知識や技能を円滑に継承するための勉強会や訓練会の実施 ・事故情報や過去事例の活用
異常時への適切な対応	・規程や異常時マニュアルに沿った運転規制と運転再開時の取扱いの厳正 ・異常時取扱い習熟度向上のための訓練会実施 ・異常時体制の継続的な整備と情報の共有化

3 事故等の発生状況と再発防止措置〈2015 年度〉

(1) 鉄道運転事故(「鉄道事故等報告規則」に規定する事故)

鉄道運転事故の発生はありませんでした。
今後とも引き続き発生防止に全力で取り組んでまいります。

(2) 輸送障害(30分以上の遅延や運休)

- ・平成27年 5月27日 亀によるポイント不転換により62分遅延発生
- ・平成27年 8月17日 大雨の影響により運転休止
- ・平成27年 8月25日 台風15号の影響により運転休止
- ・平成27年 8月29日 大雨の影響により45分遅延発生

(3) インシデント(鉄道運転事故が発生する恐れがあると認められる事態)

インシデントの発生はありませんでした。

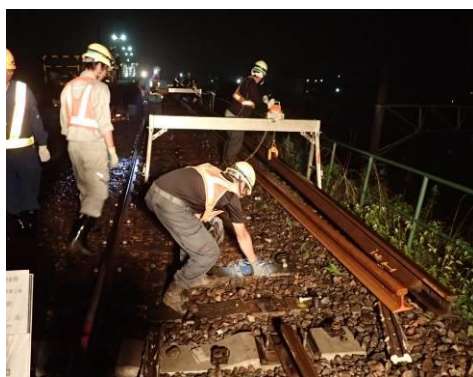
(4) 行政指導等

国土交通省からの行政指導はありませんでした。

4 輸送の安全確保のための取組

(1) 重点安全施策(安全関連投資)

2015年度は、レール更换(河原田駅構内、河原田～鈴鹿間延べ763m)、盛土のり面改良(鈴鹿～玉垣間195m)、河芸駅継電連動装置更新、自動列車停止装置新設(玉垣駅構内速度照査用ATS地上子)、レール締結装置更新(延べ5,874m)、鈴鹿駅ホーム高らん改良、玉垣駅こ線橋改良などの安全設備関連工事のほか車両の重要部検査(イセ102号:イセⅢ型1両)等、合計で約210百万円を投入し、安全・安定輸送設備の整備・改良工事は計画通り完了しています。



レール更换工事



盛土のり面改良工事



河芸駅継電連動装置更新



自動列車停止装置（ATS）新設



レール締結装置更新



鈴鹿駅ホーム高らん改良



玉垣駅こ線橋改良



重要部検査（イセ 102 号）

2016年度につきましては、伸縮継目レール更新（5ヶ所）、のり面改良（89m：746㎡）、継電連動装置更新（中瀬古駅）、ATS地上子更新（45ヶ所）、踏切遮断機新設及び警報機・遮断機更新、架道橋橋桁防護工改良、こ線橋改良（中瀬古駅、河芸駅）等の安全設備関連工事、車両の重要部検査等の保全関連工事を計画しており、今後とも安全の維持・向上に向けて各種設備の整備・改良に積極的且つ着実に取り組んでまいります。

(2)人材教育

当社では、安全目標を確実に達成するための「重点実施計画」を定め、それをもとに駅（運転指令業務）、機関区（運転士）、工務区等の関係部署がそれぞれに詳細な年間計画を策定し、毎月（乗務員・工務関係社員）及び四半期（駅関係社員）ごとに訓練会・勉強会を開催して知識・技能の向上を図っています。



新入社員教育



定期訓練

また、国土交通省や中部鉄道協会及び(社)日本鉄道運転協会・日本鉄道施設協会等の主催で開催される、安全管理や専門的な知識・技能の向上を目指す研修会等にも積極的に参加し、社員のスキル向上に努めています。

(3)異常時対応訓練

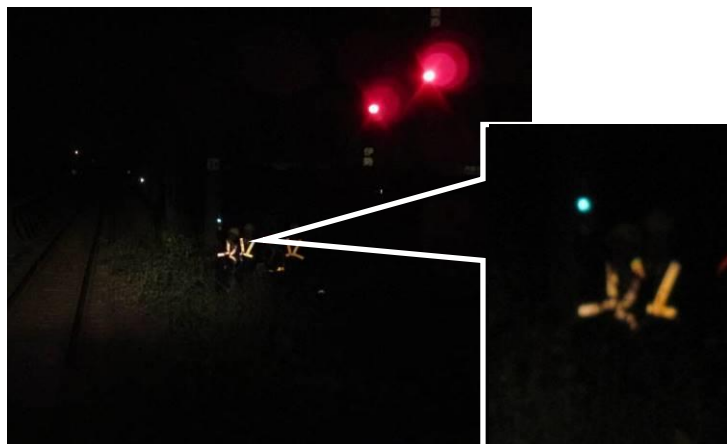
毎年1回、J R 東海と合同で、運転事故や災害等の異常時を想定した訓練を実施しています。

2015年度は伊勢鉄道から11名が参加し、①『河原田駅場内信号機が故障し、現示不能（進行を指示する信号が出ない）となったことを想定、手信号にて駅へ列車を収容する訓練』、さらには②『河原田～玉垣駅間にて車両故障が発生したことを想定、河原田駅から別列車で伝令法にて救援する訓練』の2項目について、営業列車終了後の夜間に実際の列車を使用して実施。伊勢鉄道指令とJ R 東海指令及び現場の係員の役割分担を行い、異常時チェック表、作業指示票など実際に使用するリストを確実に活用する中、各担当者間の連絡、指令間（会社間）相互の情報連絡方法について検証を行うなど、異常時対応能力の向上を図りました。

① 河原田駅場内信号機故障（想定）訓練



通告する J R 社員と
受領する伊勢鉄道社員



手信号を現示する J R 社員

② 河原田～玉垣間で車両故障（想定）訓練



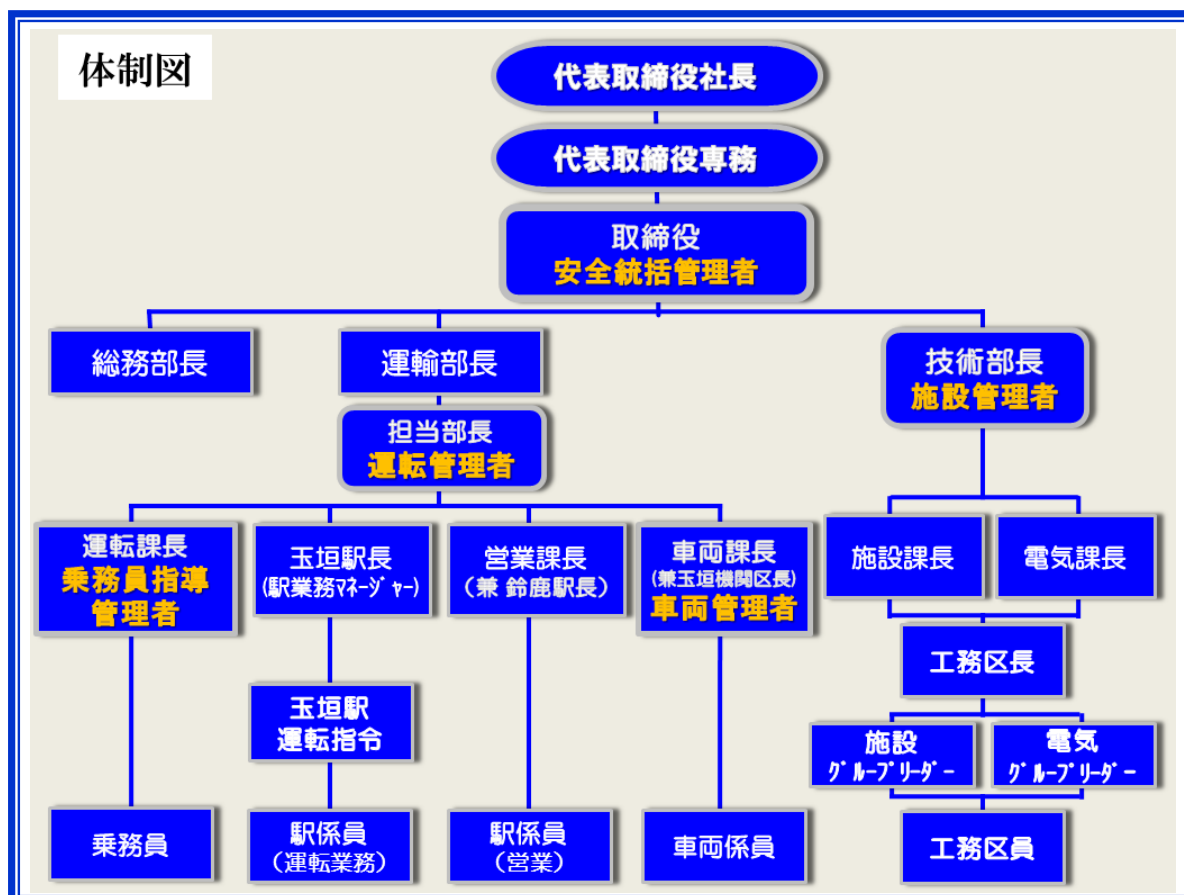
救援列車現地到着



救援列車・故障車併結

5 当社の安全管理体制

社長をトップとする安全管理組織を構築し、各責任者の責務を明確にしております。また、毎月一回、安全対策会議を開催し「事故の芽を摘む」意識で、過去事例の検証や、「事故のたね」である「ヒヤっとした・ハッとした」出来事の記録を活用し、現状の問題点の抽出・改善策等を話し合い、安全度の更なる向上に努めています。



役職・役割

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安 全 統 括 管 理 者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運 転 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗 務 員 指 導 管 理 者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
車 両 管 理 者	運転管理者の指揮の下、車両に関する事項を管理する。
施 設 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する。

6 お客様や地元の皆さまとの連携とお願い

(1) お客様からのご意見

より安全で信頼される鉄道をつくるため、当社ホームページへのメールや電話等によりお寄せいただいたご意見を役立てております。お気軽に下記連絡先までご意見をお寄せください。

(2) 沿線にお住まいの皆さまへ

安全な列車運行を行うためには鉄道施設の工事が必要です。

極力、ご迷惑をおかけしないよう努めておりますが、工事による騒音や振動でご不便をおかけすることもあるかと思えます。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。

(3) 列車妨害防止のお願い

2015年度は、置石や線路内への自転車放置といった列車妨害の発生はありませんでした。

列車妨害の発生件数は年々、減少しつつありますが、高速で列車が走行する線路敷地内への立ち入り・いたずらは、列車との触車死亡事故や列車脱線事故にも直結する非常に危険な行為です。線路付近で遊んでいる児童等を見かけられましたら、線路内へは決して立ち入らないよう、引き続き注意・指導をお願いいたします。



交通安全啓発活動

7 ご連絡先

安全報告書へのご感想、当社の安全への取り組みに対するご意見をお寄せください。

伊勢鉄道株式会社

TEL 059 - 383 - 2112
(FAX も同番号)

E-mail: anzen@isetetu.co.jp

ホームページ : <http://www.isetetu.co.jp/>